

## 2020.07 Monthly Report



写真1 / こんな都電がかつては東京中を走っていた

## 初期の東京市電を支えた旧発電所トリオとは 跡地の探訪記と調査結果をまとめてご紹介！

### ～明治・大正の都市交通を支えた小発電所～

#### ☆本邦初公開!? 明治の火力発電所トリオ!!

本紙ではこれまで、何回かに分け「明治・大正期の旧・東京市電を支えていた火力発電所トリオ」という括りの記事を掲載してきた。

それは1903（明治36）年から始まった、東京における民間電車事業3社（東京電車鉄道＝明治36年～、東京市街鉄道＝明治37年～、東京電気鉄道＝明治39年～）の電力確保のために建設された各鉄道会社所有の「品川火力発電所」「深川火力発電所」「渋谷火力発電所」の3つの火力発電所を指す。

企業や公共施設、一般家庭、街路灯などに供給する電力については、東京電燈をはじめとする電力会社が発電・送電を担っていた。しかし、明治30年代に突然始まった電気鉄道（路面電車）の電力までも賄うのは、



写真2 / 渋谷火力発電所跡地は市電や都電の後継者・都バスの車両基地

電力会社の当時の発電所の規模からすると難しかったせいだ。

そこで電気鉄道の事業者は自前の発電所を持たないと開業できなかったのだ。また電気鉄道事業を運営する3社はまだ走行距離が短かった（東京電車鉄道は品川～新橋、東京市街鉄道は数寄屋橋～神田橋、東京電気鉄道は土橋～お茶の水）ため、自前の発電所で発電した余剰電力を、一般向けにも送電していたらしい。したがって当時の東京の電気鉄道事業者は、電力会社としての顔も持っていた。

そしてこれら3社は1906（明治39）年に合併して東京鉄道となる。さらに1911（明治44）年には東京市がこの東京鉄道を買取り、誕生したのが旧・東京市電（運営は東京市交通局）だ。

東京市電になってからは営業キロ数も飛躍的に伸びていくが、東京鉄道の経営権を取得した際、東京市は電車事業とともに3つの発電所も継承する。すなわち電気事業も買い取ったことから、東京市の電気事業の歴史（東京市電気局）もここに始まった。

それは第二次大戦末期に東京市電から東京都電へと衣替えしたあたりで、戦時体制下の国にいったん譲渡されるが、戦後になって今度は東京都水道局による発電事業が始まる。その伝統は現在、小河内ダムなどの水力発電事業に継承されている。

それはともかくとしてー。以上のような経緯のそ